

建築家の創作における屋根表現

屋根 設計意図 言説 建築家

正会員 ○坂拓也\*  
同 山田深\*\*

1) 序: 本論の目的・概要

建築作品において、屋根の表現が希薄になりつつあるように思える。

近年の建築作品では、複雑な曲面の建築や図をそのまま建ち上げたような建築が目立つようになり、そのような作品における屋根は、おそらく積極的に表現されたものではない。

しかし、元来屋根は、多様な形態と共に設計者の意図、表現が反映される部位であると思われるのだが、現代の建築表現において「屋根」はどのような位置づけがなされているのだろうか。

本論文は現代建築家の作品の「屋根」に着目し、どのような意匠表現がなされているのか、建築家の作品の資料、言説からその思考の一端を明らかにする事を目的とする。

分析方法として、建築家の屋根表現を明確にするため、建築家の作品における屋根の形態を〈屋根の形〉として作品資料\*1から整理し、〈屋根の形〉に対しての概念、イメージなどが語られている言説を〈設計意図〉として分析する。最後にそれら分類・分析された結果を重ね合わせる事によって、建築家の創作における〈屋根の形〉と〈設計意図〉の関係を明らかにする。

2) 〈屋根の形〉の意味内容

建築家の作品における屋根の形態について、言説に〈設計意図〉が得られた全86作品を写真、配置図、断面図等を中心に〈屋根の形〉として整理を行う。(図1)結果として、[陸屋根][切妻屋根][片流れ屋根][寄棟屋根][方形屋根][特殊勾配屋根][ドーム型屋根][ヴォールト屋根][有機的屋根]を含む【単純屋根】とそれらが複数組み合わせた【複合屋根】という二つの側面から捉えることができた。

3) 屋根表現における〈設計意図〉

建築家がどのような思考によって〈屋根の形〉を決定するのか。その〈設計意図〉を明らかにするため、言説から抽出された〈設計意図〉をKJ法的\*2に分類・整理する。(図2)結果として、大枠として【外部要素】と【内部要素】という二つの側面において捉えることができた。

3.1 【外部要素】の内容とカテゴリ

【外部要素】とは〈屋根の形〉の設計において外的な要因に関係を求めている〈設計意図〉である。

【外部要素】はさらに《場所》と《建築》という大カテゴリに分類される。《場所》には近隣や街並みに対して調和を求めようとする<周辺環境>や、積雪や雨水の処理などを目的とし、主に機能的な側面から語られる<気候>が含まれる。

《建築》には、「紙飛行機のような屋根」というような屋根の<形そのもの>についての記述や、「建物の外観を特徴づける」というような<外観>について、また「民家の美しさを表現する」というような、過去とのつながりで語られる、<歴史>というカテゴリが含まれる。

表2 分析例

表3 〈屋根の形〉の年代別抽出率

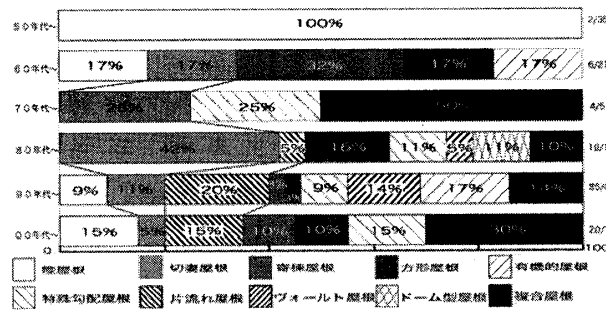


図1 〈屋根の形〉の分類図

表1 資料リスト

No	掲載年月	作品名
1	sk1952/3	宮家の住宅
2	sk1957/8	SH13
3	sk1963/6	黒い壁と白い壁の住まい
4	sk1965/9	金子邸
5	sk1965/9	藤井邸
6	sk1966/9	わきの木の家
7	sk1967/1	山荘・もうびいでいづく
8	sk1968/3	水木邸
9	sk1970/2	遊水住宅くもん・しゃぼり
10	sk1970/2	自白の家
11	sk1972/8	まつかわ・ぼつとす
12	sk1975/10	松川吉子の住宅
13	sk1980/5	野村荘・新築
14	sk1980/8	久保邸
15	sk1981/2	松たけの家の家
16	sk1982/4	鳥居のアトリエ
17	sk1982/4	森田邸
18	sk1982/4	宇野富雄
19	sk1982/4	下鴨の荘
20	sk1986/6	アーバン・バーン
21	sk1986/8	みどりのピスタ
22	sk1986/9	五峰ハウス
23	sk1986/12	南長田の邸
24	sk1987/5	はつと・とびく
25	sk1987/6	神楽住居 亀崎
26	sk1988/3	関倉
27	sk1988/4	藤
28	sk1988/11	NM邸・K邸
29	sk1989/7	ポリフォニーワンドの家
30	sk1989/8	いちじまの家の家
31	sk1989/12	江田の家
32	sk1990/1	名越邸
33	sk1990/8	岡田の家
34	sk1990/9	藤ヶ崎の家
35	sk1990/9	龍造の家
36	sk1991/2	上野の家
37	sk1991/4	VILLA TORI
38	sk1991/9	南平邸の香
39	sk1992/1	伊藤の家
40	sk1992/3	VILLA KURU
41	sk1992/5	中田邸
42	sk1992/5	COLLINOSSO
43	sk1992/6	日本橋の家
44	sk1992/8	BEAN HOUSE
45	sk1992/9	藤原邸
46	sk1993/5	大島邸の家
47	sk1993/9	北白川の家
48	sk1994/2	西島邸の家
49	sk1994/7	藤原邸
50	sk1994/11	自白の家
51	sk1994/12	藤野氏の住まい
52	sk1995/4	KA-KO-I
53	sk1995/4	宮土の増野の住まい
54	sk1995/6	大工町の家
55	sk1996/1	上野の家
56	sk1996/4	FULL HOUSE[山口県]
57	sk1996/4	藤の家
58	sk1996/4	Healthcare小島
59	sk1996/7	藤野邸の家
60	sk1997/2	藤野の家
61	sk1997/4	Co-tached House
62	sk1998/1	豊月邸
63	sk1998/4	所川の家
64	sk1998/9	N邸
65	sk1998/9	藤井・井上邸
66	sk1999/11	藤原の家
67	sk2000/1	吉野の家
68	sk2000/3	藤原氏の住宅
69	sk2000/6	slash
70	sk2001/2	T・NHOUSE
71	sk2001/3	ハウス・アタマ
72	sk2001/3	ハウス・サイマ
73	sk2001/8	藤原の家
74	sk2002/8	M邸
75	sk2003/3	長い壁
76	sk2003/7	のこぎり屋根の家
77	sk2003/8	藤原の家
78	sk2003/10	ガレハウス
79	sk2003/10	藤原の家
80	sk2004/10	HOUSE
81	sk2005/1	アシタノイエ
82	sk2005/2	藤原の家
83	sk2005/3	切妻の家
84	sk2005/4	匠しめがちな家
85	sk2005/11	エムハウス
86	sk2006/12	住居No29

### 3.2 【内部要素】の内容とカテゴリー

【内部要素】とは〈屋根の形〉の設計において、内部空間との関係性についての〈設計意図〉である。【内部要素】には内部空間に軽やかさや開放感を求めるというような記述である〈空間の性格〉や、空間を連続させる、分節するというような手法的な側面についての記述である〈空間の構成〉が含まれ、また生活の広がりや包容感など、人との関わりにおいて関係性を求める〈人間〉のカテゴリーが含まれている。

### 4) 〈屋根の形〉と〈設計意図〉の関係

〈屋根の形〉と〈設計意図〉の結果を重ね合わせることによって、その関係を明らかにする。表4においてその関係を考察すると、[寄棟屋根]と〈外観〉、[有機的屋根]と〈空間の構成〉、また、〈複合屋根〉と〈気候〉において強い関係性がみられる。逆に[陸屋根]は《場所との関わり》で述べられることがほとんどない。また、[切妻屋根]と各〈設計意図〉の関係がほぼ一様になり、その他にも多様な関係性が表れた。

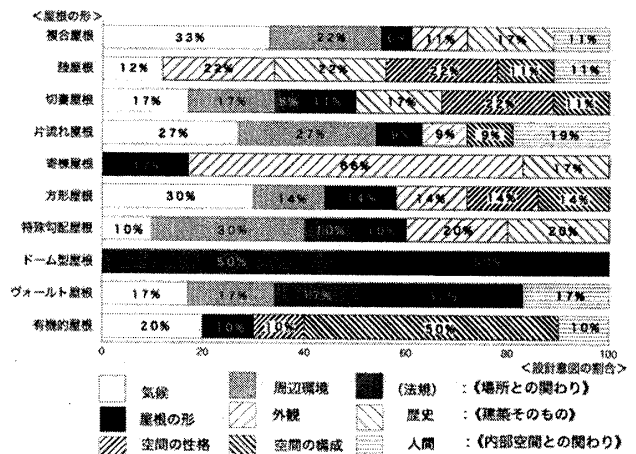
[寄棟屋根]と〈外観〉との結びつきが強いということは[寄棟屋根]の設計においては、そのほとんどが外観としての「見かけ」に要点を与え設計しているといえる。[有機的屋根]と〈空間の構成〉との結びつきからは、[有機的屋根]のような複雑な曲面を持つ屋根の形は、内部との密接な関係によって成立しているといえる。[片流れ屋根]と〈気候〉、〈周辺環境〉との関係においては、〈気候〉に対してはそのほとんどが機能的な側面で語られ、勾配が一方である為の特徴として「雨、積雪などの処理の簡易化」が考えられる。また〈周辺環境〉においては「同調性を高める」傾向があるといえる。また[片流れ屋根]とは対称的に、[陸屋根]の〈設計意図〉については《場所との関わり》で述べられることが

ほとんどなく、[屋根の排除]という〈設計意図〉に強い関係を持っている。さらに[切妻屋根]は多様な〈設計意図〉を含み込み、【複合屋根】と〈周辺環境〉、〈気候〉との強い結びつきが得られたが、しかし、複合屋根についての〈設計意図〉には部分と全体の意図があり、語られる水準は様々である。

### 5) 結

以上、本論では建築家の創作における〈屋根の形〉とその〈設計意図〉の関係を捉え、屋根表現の一端を明らかにすることができた。

表4 重ね合わせの表



- 注 1) ここでは、現代日本の代表的な建築誌のひとつである『新建築』（1950年～2006年）、『新建築住宅特集』（1985年～2006年）に発表された698の「作品解説」より、明確な屋根の（設計意図）を読み取ることができた86の作品について（屋根の形）の整理を行った。
- 2) 訂正：川喜田二郎『発想法』（中央公論社）

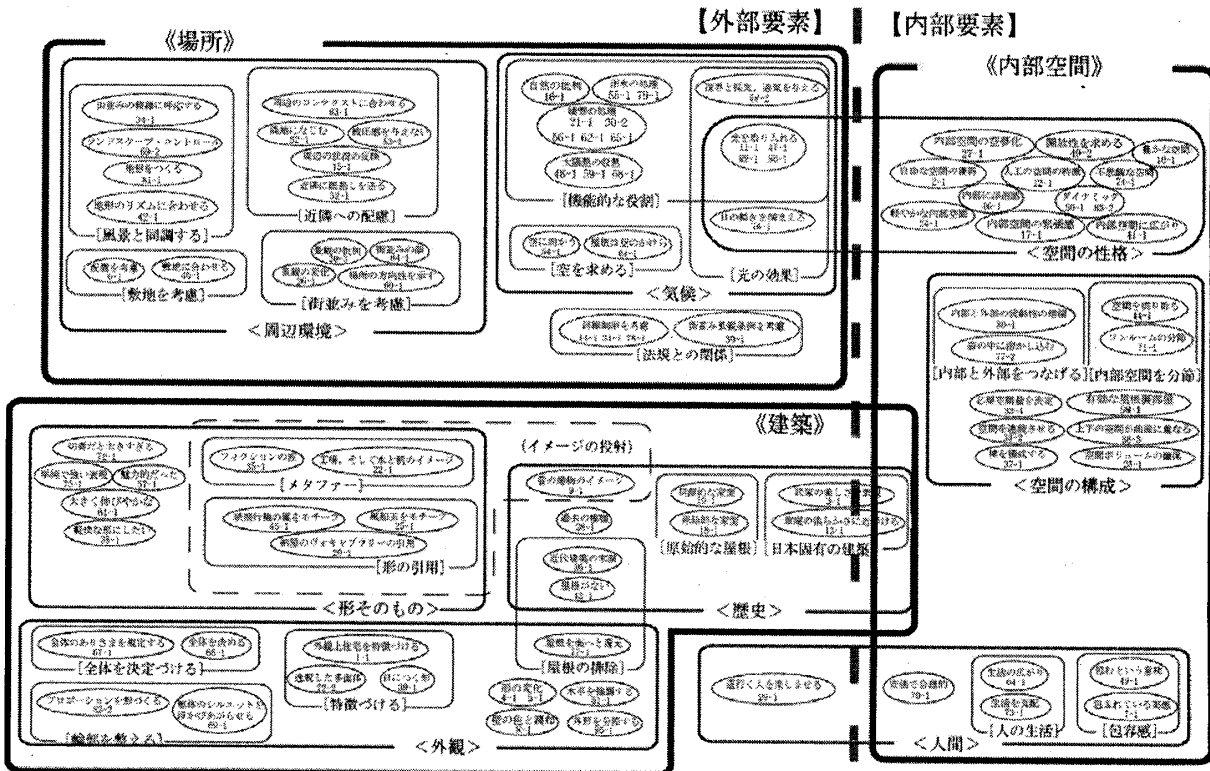


図2 (設計意図) の関係図

\*室蘭工業大学研究生

\*\*室蘭工業大学建設システム工学科講師

\* Researcher of Graduate school Muroran Institute of Technology

\*\* Assist.Prof, Dept of Civil Engineering and Architecture,

Faculty of Engineering Muroran Institute of Technology